

高崎商科大学 令和6年度運営方針

2024年4月1日

1 概要：「卓越した商学教育」に向けた試行/検証/ 共有/発信

1. 「卓越した商学教育」の実現に向けて、「教育」「研究」「地域貢献」それぞれの領域で試行/検証/共有/発信を行い、本学教育全体の質の向上をはかる
2. 1を通じて、個人、各ユニット、大学それぞれで「自主・自立」を模索し「こえる」(越・沃・超)
3. 1の過程と成果をステークホルダーに発信し、TUCブランドを県内で確立し近県から全国へと浸透させる
4. 建学の精神「自主・自立」、教育理念「実学重視」「人間尊重」「未来創造」を具現化し、現行の中期計画の達成及び次期中期計画の構想を行う
5. 地域における教育機関、学校法人としてニーズに応えシーズを提供し続ける存在となり、継続的な価値の創造を通じて地域の豊かさに貢献する

2 個人：「卓越した商学教育」の担い手に

教育 「面倒見よく育てる」、100分14週の活用、正課授業の深化、新しい教育方法(ポートフォリオ、ルーブリック評価、オープン教育リソース)、課外教育プログラムの開発、参画、進路選択支援、「Society5.0」AI/数理/データの視点から教育のデザインを試行する

研究 「本学らしい研究」、社会課題、地域課題への対応、外部資金の獲得及び学内外の競争的資金への申請

社会貢献 「地域への知の還元」、公開講座、メディア等を通じた社会との対話、社会や地域での大学人の役割

大学人・組織人 「互いの尊重と共感」、法令や規律の遵守、経営・マーケティングの視点

こえる [越] 教職協働、学内外との社会連携、STEAM 教育 [沃] 研修機会の活用、働き方関連の休暇や制度の活用 [超] (教育、研究、学生支援、教学業務の進化/深化)

3 各ユニット：「卓越した商学教育」のための協働を

各ユニット 委員会、センター、学部、学科、共通・隣接分野、同一科目担当、共同研究、課外活動、事務局、ワーキンググループ等

教育 「個を支える」「しくみを動かす、作る、試行する」、FD・SD 活動での共有、協働、IR の活用

研究 「学際的、総合的な研究」学内外での共同研究、学会や社会との研究成果の共有

社会貢献 各ユニットでの社会貢献の構想、試行、支援

組織運営 「心理的安全性の確保」教職協働、ユニット間協働の深化「個が成長し、ユニットも成長する」組織

こえる [越] 社会連携、共同 SD、IR [沃] 業務や活動を通じた TUC 人材の育成、研修等の開発 [超] Haul-A プロジェクトの推進、学部・学科・研究科の特徴の伸長

4 大学：「卓越した商学教育」を進め支える

教育 新学部・学科・コース等の将来構想の策定、遂行 既存学部等のアップデート

研究 外部資金獲得支援、研究環境及び成果共有環境の整備

社会貢献 学内ユニットと学外とのマッチング、調整、リソース分配と活動支援

大学運営 認証評価の受審、教学マネジメントによる教育の質保証サイクルの確立、TUC ブランドの確立、次期中長期計画の策定

こえる [越] 産官学金連携 [沃] 働き方の多様化のための制度 [超] 大学間連携による、教育、研究、社会貢献の進化/深化